月刊FALCOM MAGAZINE

Vol.120

緊迫のハーケン門、
そこに現れた意外な人物とは？

英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～

ありがとう！
ファルマガ10周年！



ザナドゥでも10年間を振り返り！

も～っと集まれ！
ファルコム学園

ファルコムニュース

『軌跡』シリーズ始まりの物語を振り返る

英雄伝説 空の軌跡

艶やかな新衣装が到着！

『英雄伝説 暁の軌跡』

コミック新連載!! 新たに描かれる“あの男”の軌跡!

創の軌跡 THE MISERABLE SINNERS





FALCOM MAGAZINE

CONTENTS


ファサ
あなたたち…
…誰？
……
《C》…と
…呼んでもらおう

THE LEGEND OF HEROES

創の軌跡

【はじまりのきせき】

THE MISERABLE SINNERS

漫画　墨天業
原作　日本ファルコム

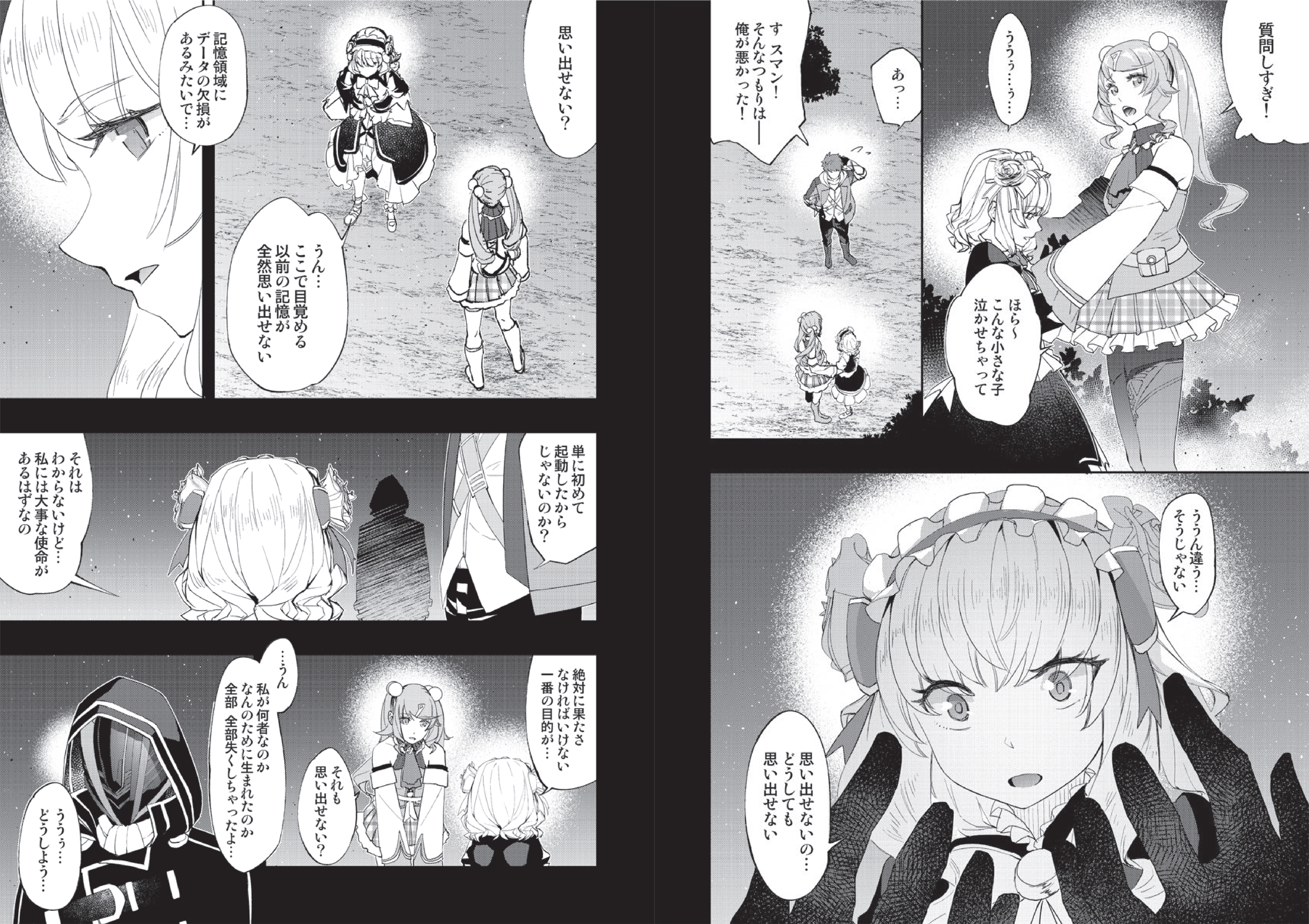





むぅ…ここに来て まさかの人身売買
なわけない…と思いたいが それにローゼンベルクといえば 確かあのご老人の…
ヨルグ・ローゼンベルク その界隈では知らない者が いないほどの 稀代の人形技師だったな
あのおじいちゃんの隠し子!
ここでその名前が 出てくるという事は…
というのは冗談で ほら見て この子の手足
この関節部…まさか ……人形 なのか?
本物の人間じゃないとは 思えないほどの 精巧でキレイな顔
ううん 逆に本物の人間には この完璧なバランスと儚い美しさは ありえないんじゃないかな?
まさに至高の芸術品か 「マイスター」の名は 伊達ではないようだ


そう――
私は誇り高きローゼンベルク人形
あなたたちなかなか見る目があるのね
…あれ～？でもそうなると…
簡単な会話ができる導力仕掛けのオートマタなら聞いたことはあるが…
これほどまでに確かな自我と思考さらには豊かな感情表現を持つ人形か
やはり普通ではないな


当然よ！最新式のローゼンベルク人形だもの
それだけじゃ説明がつかないだろう
ラピスと言ったな
…お前は一体なんなんだ？
何かあるはずだお前しか知らない情報やお前にしかできない特技が
それは…
でないとおかしいだろう？
怪しい黒服の集団がアレほど執拗に狙っていたくらいだからな
私は…
さ なんでもいい話してもらおうか？
すーちゃん



質問しすぎ!
ううぅ…ぅ…
ほら～ こんな小さな子 泣かせちゃって
あっ…
す スマン! そんなつもりは—— 俺が悪かった!
ううん違う… そうじゃない
思い出せないの… どうしても 思い出せない
思い出せない?
うん… ここで目覚める 以前の記憶が 全然思い出せない
記憶領域に データの欠損が あるみたいで…
単に初めて 起動したから じゃないのか?
それは わからないけど… 私には大事な使命が あるはずなの
絶対に果たさ なければいけない 一番の目的が…
それも 思い出せない?
…うん 私が何者なのか なんのために生まれたのか 全部 全部失くしちゃったよ…
ううぅ… どうしよう…


失ったのなら取り返せばいい
え？
何か方法があるの？
さてな 探せばあるかもしれないし 無いかもしれない
ボソッ
このヒト 適当だよ～？
？
お前が言うか…
いずれにせよ 君は私のところに 届けられた…
私と行動を共にすることが 結果的に君の果たすべき 使命とやらに 繋がるのではないか？


おそらく君の存在は 何か重要な事実に 繋がっている
確証はないが 私が私の目的を 果たすためには 君のことが必要に なるかもしれん
だから 私に協力しろ
その代わりとして 君の自分探しにも 付き合ってあげよう 一緒に来る気はないか？
──我々の利害は 一致するはずだ
…わかった


付き合ってあげるわ
光栄に思いなさい！
さて これで
依頼は達成だな
次はどこに行こうか…
なーちゃん
長期休暇を
求めま～す
残念ながら
俺たちにはそんな
経済的な余裕は無い
ええ～～
そんな～
いくらごねても
無いものは無い
ほら行くぞ
ナーディア
待ちたまえ
まだ何か用？

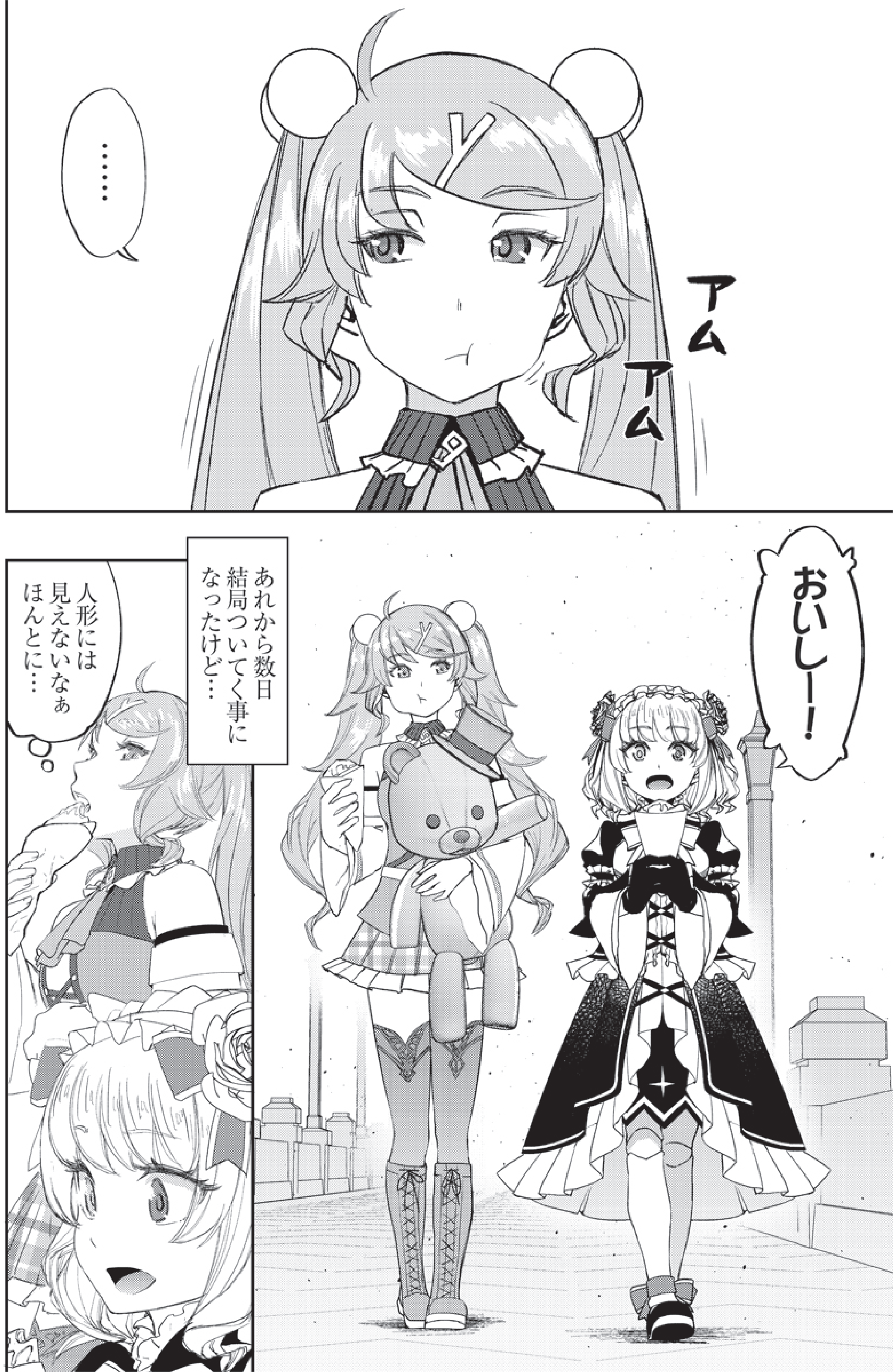

荷物はちゃんと届けた
アフターサービスまでは
さすがに仕事の範囲外だぞ
範囲外なら
範囲内になるように
新たに契約すればいい
どうだ私に
雇われる気はないか？
…どういう
つもりだ？
……
これから
やろうとしていることで
少々手が足りなくてね
君たちの腕を見込んで
私の目的を達成するまで
協力してもらいたいのだよ
ねぇ 仮面さん
率直に言うけど——

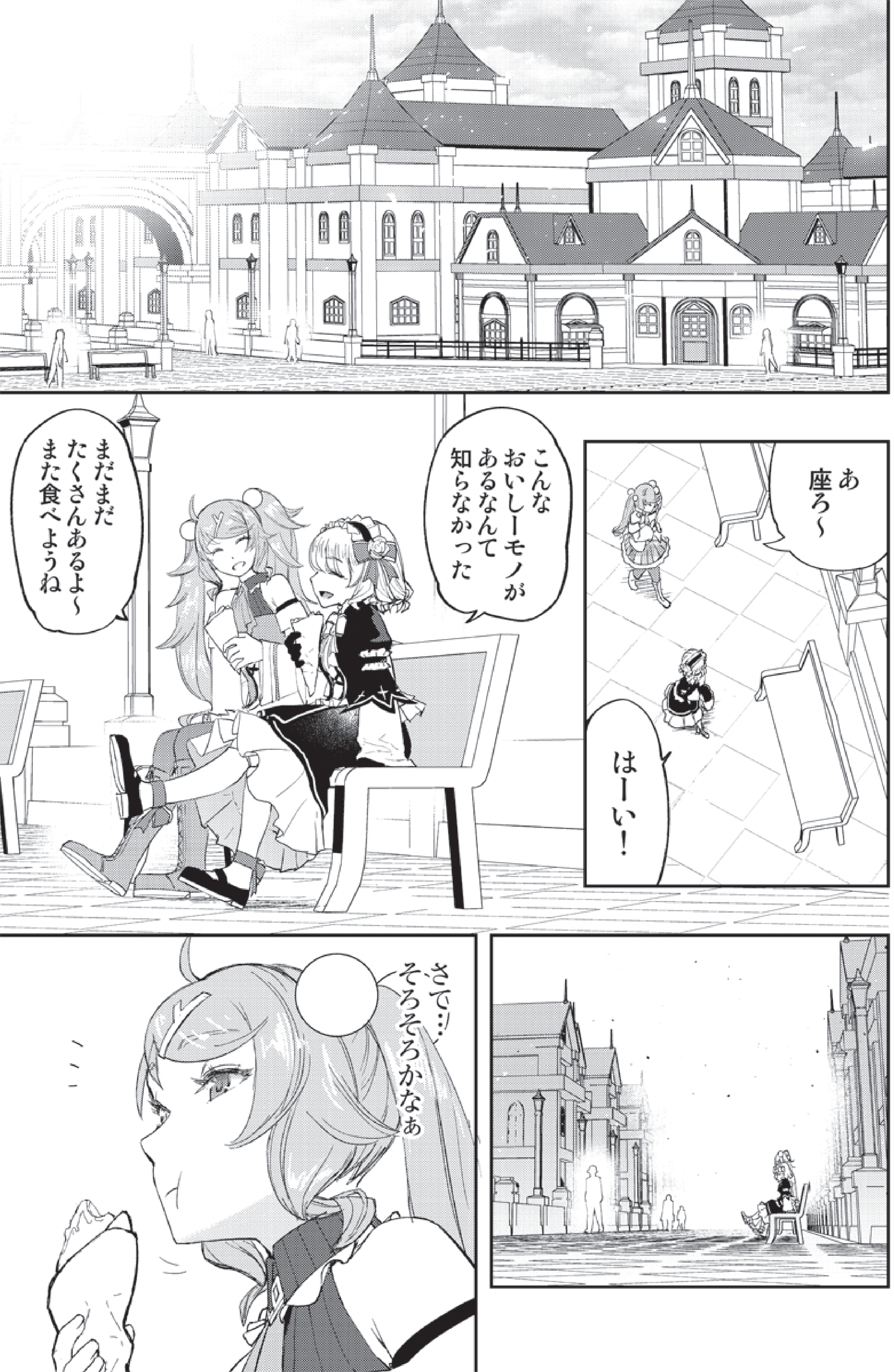

怪しすぎ～～！
「怪しい」と顔に書かれたような相手から依頼を受けるわけないでしょう？
まぁ顔は見えないけど
怪しいだってふふ
何より面倒事に巻き込まれる予感しかないもん
なーちゃんはそんなに働きたくない～断固拒否！
そういうわけだ悪いが他を当たってくれ
まぁそう結論を急ぐな
もちろん報酬は弾むつもりだ


この額ならどうかね？
ス
あくまで前金だ成功報酬はさらにその3倍を支払おう
プルプル…
乗った！
カッ
おい…
これだけあればもう遊んで暮らせるよ～？夢のゴロゴロライフだよ～？
そうだな働き次第では特別手当もつけようではないか
おおおおー!!



すーちゃん すーちゃん！ これはもうやるしかない！ やらない手はないよ!!
冷静に考えろ こんなうまい話 むしろ怪しさが増す 一方じゃないか！
落ち着け…
見たところ君たちは 遊撃士ではなさそうだ かといって傭兵の類とも違う
……
その歳でその腕前 訳ありなのは 間違いないだろう
悪い話ではないはずだ 安寧を求めるなら 事が終わった後 その金で安全な土地にでも 住めばいい
それこそ二度と こんな怪しい依頼を 受けずに済むようにな
…ひとつだけ 条件がある
何かね？
――俺たちはヒトを殺さない それでいいなら あんたに雇われてもいい
ああ それで構わん
なら 契約成立だ


……
アム
アム
おいしー！
あれから数日 結局ついてく事に なったけど…
人形には 見えないなぁ ほんとに…


あ 座ろ～
はーい！
こんな おいしーモノが あるなんて 知らなかった
まだまだ たくさんあるよ～ また食べようね
さて…！ そろそろかなぁ



英雄伝説
閃の軌跡06
原作／日本ファルコム
脚本／恵村まお　漫画／さがら梨々
A5判　160P　定価：本体991円＋税
ISBN 978-4-8021-3123-0
©Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.
©SAGARA RIRI 2018
好評発売中!!
エレボニア帝国に吹き荒れる陰謀の嵐！
時代が選ぶのは果たして誰か!?
そして友という絆に背を向け、
両雄相まみえる！
激動のクライマックス！
発行：フィールドワイ　フィールドワイ公式HPはこちら➔www.field-y.co.jp
発売：メディアパル　ファルコムブックス公式HPはこちら➔www.field-y.co.jp/falcombooks

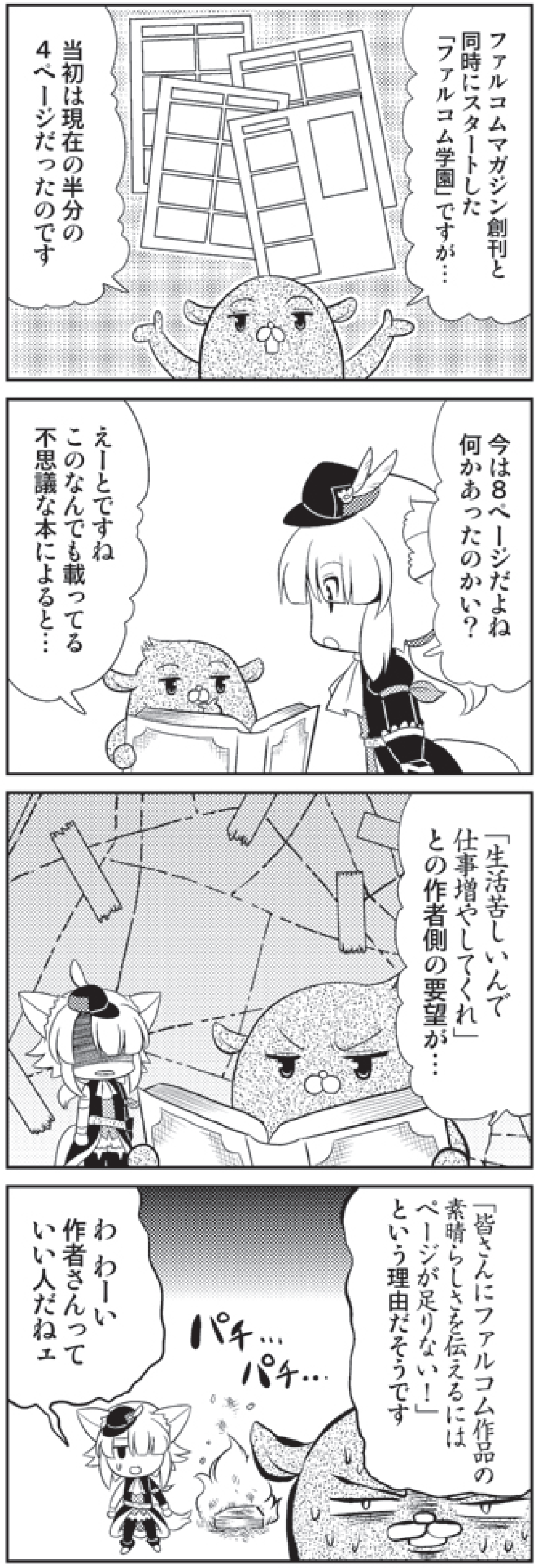


Fortsetzung folgt

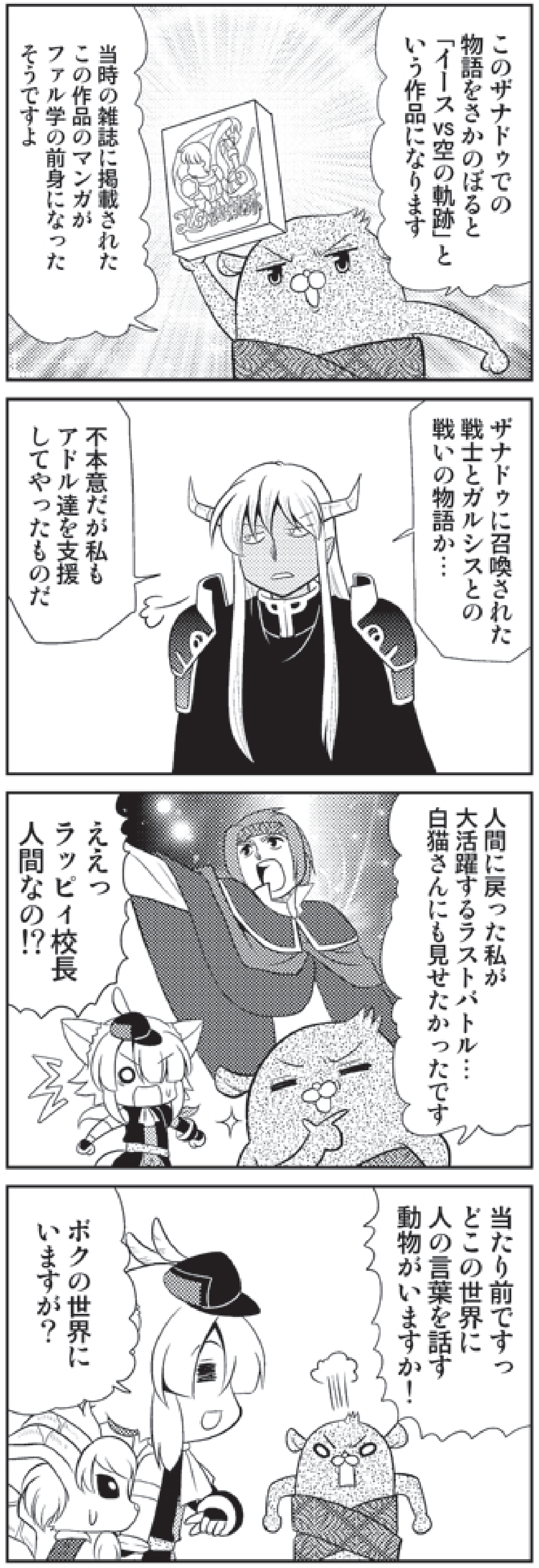
★10周年を記念してちょっとしたぶっちゃけ話をば…★



生々しいお話



原作



暴走の10年



あの時のアレ



理（ことわり）のしくみ



1巻発売



問題その1



問題その2



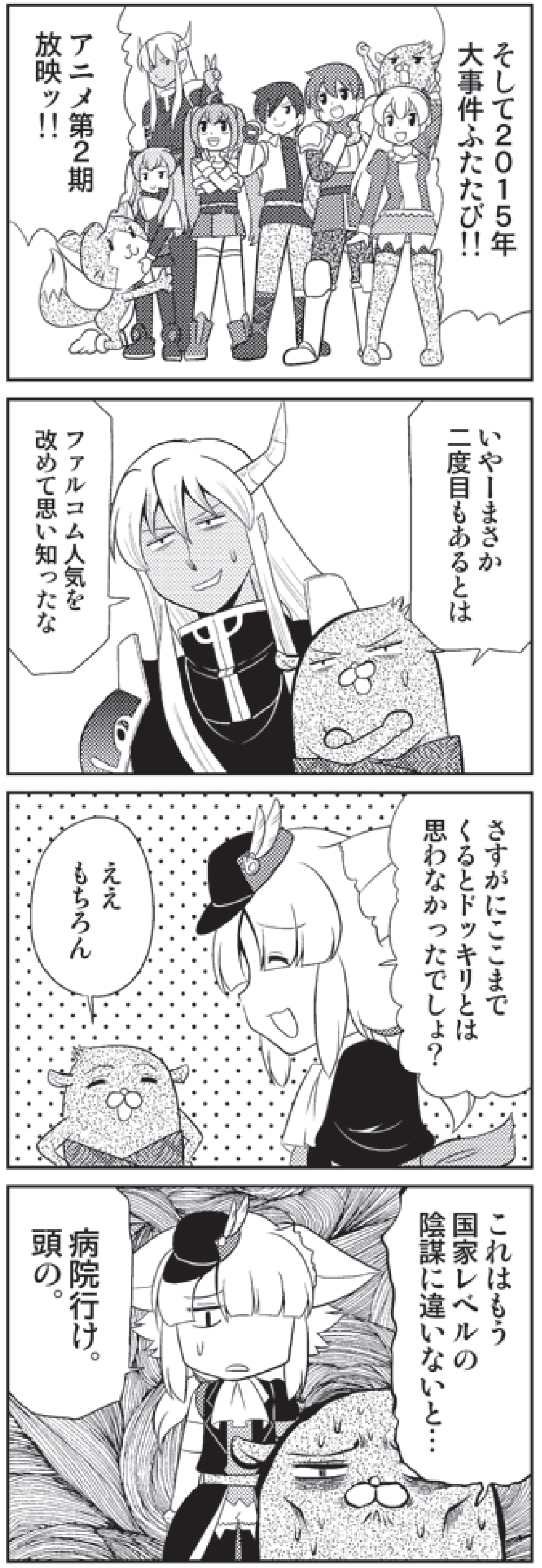
軌跡講座よ!!



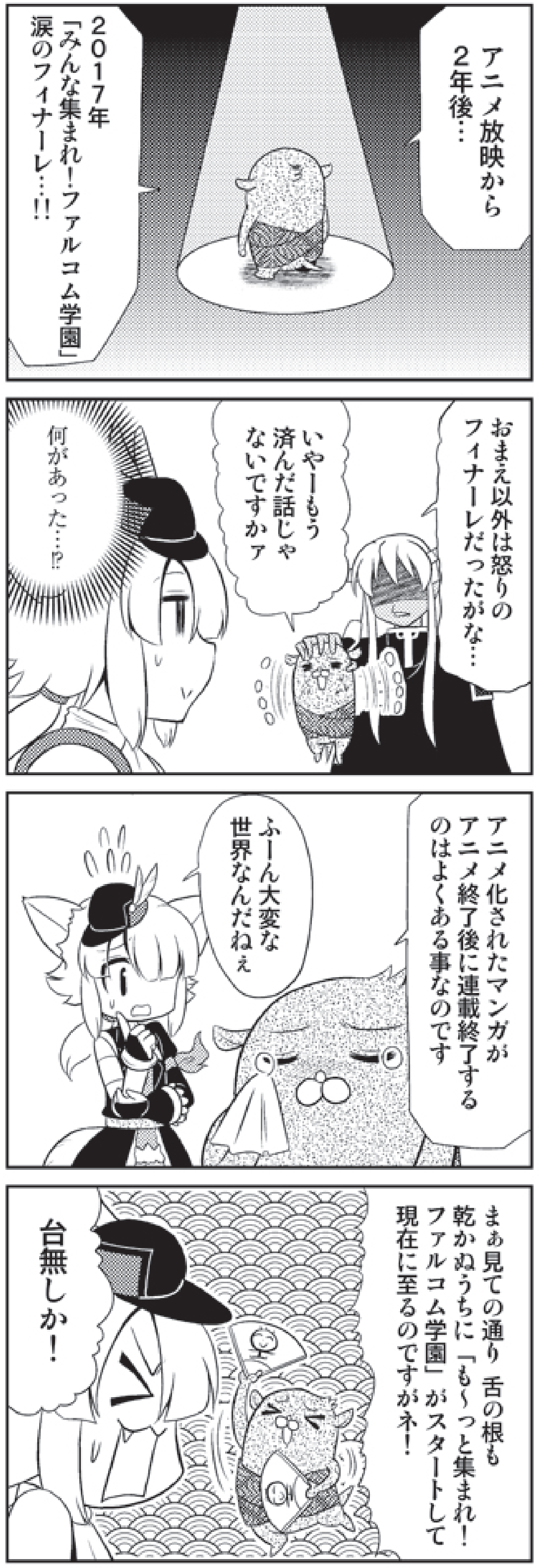
2014年のキセキ



2015年にもキセキ



はじまりとおわり



困った時のアレ



そしてまだ見ぬ戦士達へ

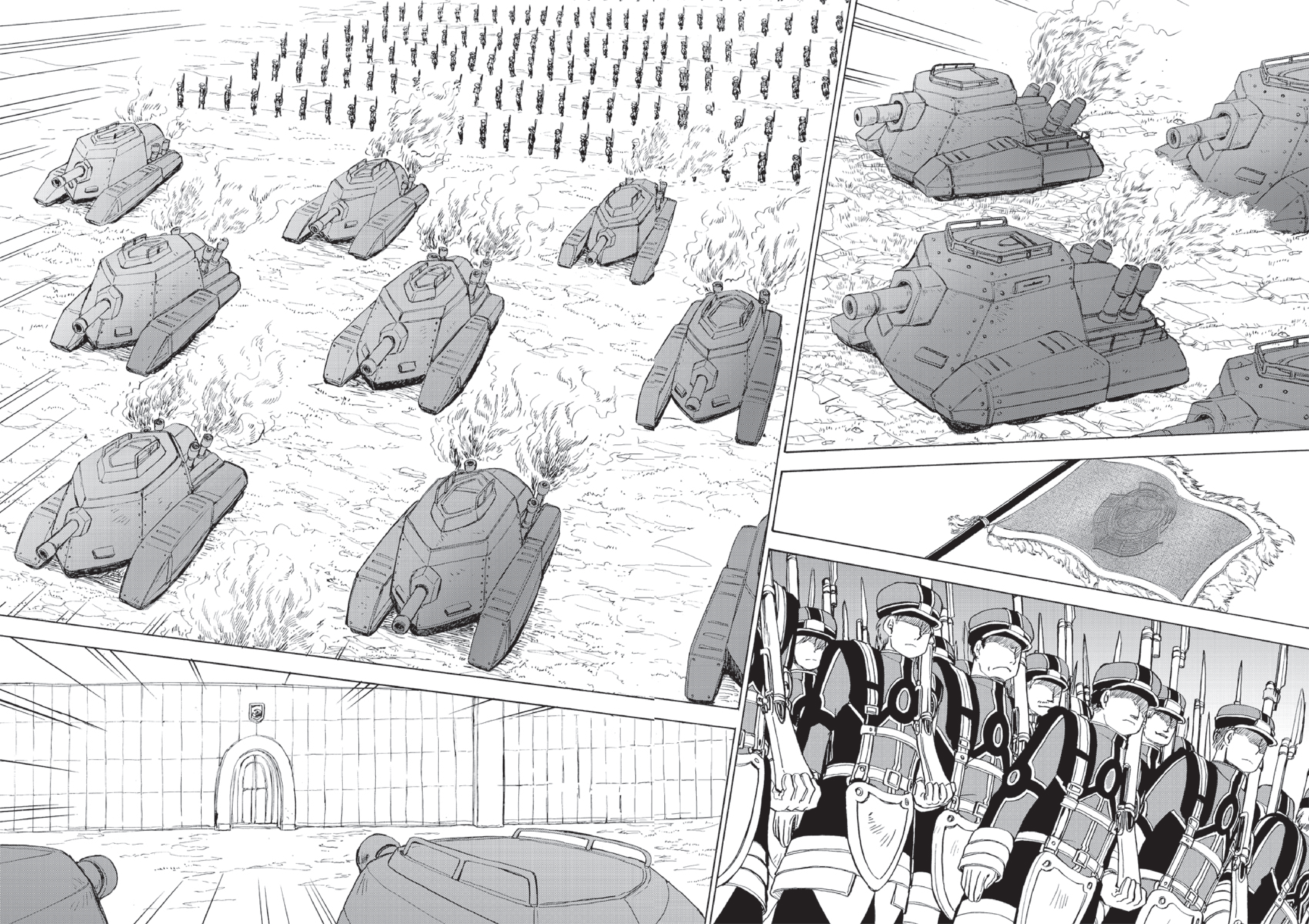




空の軌跡SC
～絆の在り処～
漫画　啄木鳥しんき
原作　日本ファルコム



穏やかで騒がしい生活が戻ってきたファルコム学園。
徐々に英雄、戦士、さらには曲者までが還ってくるなか、
新たに「イースⅨ」のキャラクターも参戦！
まだまだ止まらない異能・新久保だいすけの筆が冴え渡る！
おまたせ！
待望の第2巻だよ！
も～っと集まれ!
ファルコム学園②
新久保だいすけ
定価：本体 900 円＋税
ISBN 978-4-8021-3213-8
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.　©DAISUKE ARAKUBO　©2020 FIELD-Y
発行：フィールドワイ　フィールドワイ公式HPはこちら→ www.field-y.co.jp
発売：メディアパル　ファルコムブックス公式HPはこちら→ www.field-y.co.jp/falcombooks



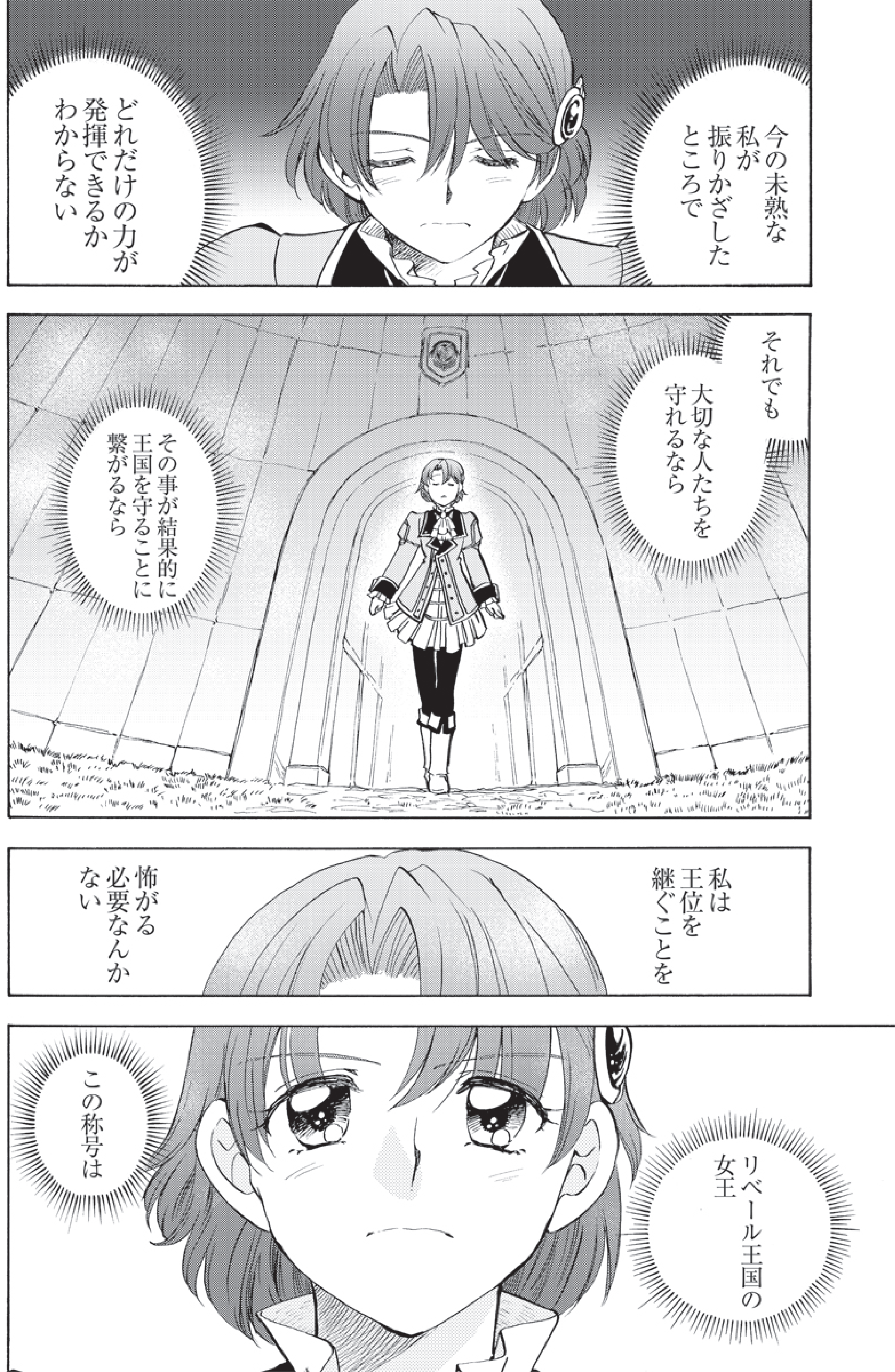

説明してもらおうか!
ここは国境の砦ハーケン門!
これより先はリベール王国だ!
なにゆえエレボニア帝国の軍隊が武装してやってくる!?


説明していただきたいのはこちらの方です
モルガン将軍
先日より我が帝国南部の街で導力器(オーブメント)の異常現象が続いている状態です
そしてそれは謎の巨大構造物が貴国の湖上に現れてからだという…
これは一体どういう事ですかな?


どういう事も何も…おぬしが言った通りだ!
我らも突然現れた災厄に混乱しきっておる!
そしてその災厄に我が帝国領土も侵されているのです
ならば我々がここに来る理由も理解していただけるのでは?
我らの弱みにつけ込むつもりか!?
聞けば異常現象のみならず乗じて怪しげな犯罪組織が王国内を跋扈しているとか
まさか
我々は先日不戦条約を結んだばかりなのですぞ
さすがに王国軍もさぞ疲弊しておられることでしょう

だがこの戦車があれば
貴国の窮状を救うこともかないましょう
異常現象下でも機動する戦車部隊の勇姿
ぜひとも女王陛下に直接ご覧いただきたい
無論 ご高齢である女王陛下にここまでご足労いただくような無礼などできるはずがありません
つきましては我々自ら王都へ馳せ参じますゆえ開門にご協力願いたく…
お気遣いとても嬉しく思います


ひ…
姫様!?
どうしてこんな危険な場所に…
持ちこたえてくださってありがとうございます
ここからの交渉は私に任せてください
は…
大丈夫よモルガン将軍
いや!ですが…
あたしたちがクローゼの護衛を務めるから!
姫殿下には指一本触れさせませんわ
しかし…
姫様が…
大丈夫!
クローゼは誰よりもリベールのみんなのこと大切に思ってるもの!
その想いの強さと
そのために積み重ねてきた彼女の努力が
あんな戦車なんかに踏みにじられるわけがない!


今の未熟な私が振りかざしたところで
どれだけの力が発揮できるかわからない
それでも大切な人たちを守れるなら
その事が結果的に王国を守ることに繋がるなら
私は王位を継ぐことを
怖がる必要なんかない
リベール王国の女王
この称号は


私が振るうことのできる
私の武器
…どうやら交渉相手が変わったようですかな？
お初にお目にかかります
わたくしの名はクローディア・フォン・アウスレーゼ
リベール女王アリシアの孫女にして
リベール王国の次期女王に指名された者です


こ……これは…
失礼いたしました……！
自分の名はゼクス・ヴァンダール！
エレボニア帝国軍第三師団を任されている者です！
ゼクス・ヴァンダール中将…ですね
御勇名は耳にしております

…して
王太女殿下がどうしてこのような場所に？
モルガン将軍と同じように抗議されるおつもりですかな？
いいえ


帝国南部の方々もさぞ不安な思いをなされていることでしょう
異常現象によってもたらされる理不尽さとそこからかきたてられる底知れない恐怖は
リベール王国民が(わたくしたち)味わっているそれとなんら違いはないでしょうから
だからこそ考えていただきたいのです
ただでさえ不安な日々を過ごしている時に
突然武装した他国の軍隊が押し寄せてきたら
人々はその光景にどんな感情を抱いてしまうのかを


ですが我々はただ…
もちろん王国のために動いてくださったことには感謝します
ですがその貴国の善意が誤解されてしまうのはあまりに忍びなく…
そのようなことは絶対に避けねばならないと思うのです
しかし
目下
わたくしたちはこの異常現象を解決する方法を最優先で模索しております


また
件の犯罪組織についても
これまですべて自力で対処できている状況です
ご心配には及びません！
帝国と王国…
わたくしたちは先日不戦条約を結んだばかり
培われた友情に無用な亀裂を入れないためにも
どうかしばしの時間をいただけないでしょうか


む…
…むむ……
…残念だが
それはそちらの事情でしかない


え…
中将
ここからは私が引き受けよう
お…
皇子…
さがっていたまえ
な…
な…
なんで…


どうしてこんなところに
オ…
オリビエが…いるの？
お初にお目にかかる
クローディア姫
エレボニア皇帝ユーゲントが一子
オリヴァルト・ライゼ・アルノールという
次回に続く



FB ファルコムBOOKS
これを読むまで
しぬでないぞ!!
『月刊 Falcom magazine』に掲載された読み切りコミック 13 本を完全収録したコミックアンソロジーがついに登場！ 新旧ファンも納得のラインナップで贈る、ファルコム愛溢れる1冊を是非ご堪能あれ！
カバーは『英雄伝説空の軌跡』コミカライズを担当した啄木鳥しんき先生の豪華描き下ろし♪
好評発売中!!
ふぁるこむコミックざんまい
収録テーマ作品
『イース』
『ブランディッシュ』
『ヴァンテージマスター』
『ぐるみん』
『ザナドゥネクスト』
『軌跡シリーズ』
価格：本体920円+税
ISBN 978-4-89610-818-7
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行:フィールドワイ
発売:メディアパル
フィールドワイのHPはこちら www.field-y.co.jp



運命に導かれるように再び出逢ったエステルとヨシュア。同時に、世に混乱を求める《身喰らう蛇》の秘密計画が実体となって姿を表す。リベール王国全土を巻き込む混沌の行方は!? 緊迫の第5巻!
《結社》との決戦の刻、迫る！
英雄伝説 空の軌跡SC 5
ソラノキセキSC
著者：啄木鳥しんき
原作：日本ファルコム
定価：本体 900 円+税
ISBN 978-4-8021-3211-4
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©KITSUTSUKI SHINKI ©2020 FIELD-Y
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら www.field-y.co.jp/falcombooks

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

スマホ用アプリ『魔剣伝説』×『イースⅧ -Lacrimosa of DANA-』コラボレーションイベント開催！



「イースⅧ -Lacrimosa of DANA-（ラクリモサ・オブ・ダーナ）」とスマートフォン用MMORPG『魔剣伝説』とのコラボレーションイベントが、2021年2月24日（水）まで実施中。「イースⅧ -Lacrimosa of DANA-」から「アドル・クリスティン」「ダーナ・イクルシア」「ラクシャ・フォン・ロズウェル」「ヒュンメル・トラバルト」の4名が限定コラボアバターとして登場。また、コラボレーション期間限定のイベントステージや、強大な敵「アニムス・ネストール」もコラボアバターとして登場します。





■開催期間　2021年1月28日（木）19:00〜2月24日（水）23:59
■『魔剣伝説』公式サイト
http://qjzj.4399ja.com/
■『イースⅧ -Lacrimosa of DANA-』公式サイト（PlayStation®4版）
https://www.falcom.co.jp/ys8_ps4/

「シナリオの数だけ世界がある——」不朽の名作RPG『ソーサリアン』がG-MODEアーカイブスとしてNintendo Switchに登場！



PCやコンシューマ向けゲームとして人気を博したアクションRPG「ソーサリアン」の携帯アプリ版「アドバンスド ソーサリアン」を完全移植。一新されたグラフィック、多彩なエフェクト演出が、ファンタジー世界の冒険を盛り上げます。プレイヤーは、4種類のクラスから4人のパーティを作成し、各シナリオに自由に挑戦できます。それぞれのシナリオには謎解きや迷路の要素がふんだんに盛り込まれており、手ごたえ十分。
チュートリアルや、ジー・モードオリジナルのシナリオを含む「基本シナリオ（16章）」と、追加シナリオ「戦国ソーサリアン（5章）」「ピラミッド・ソーサリアン（5章）」が収録されています。

■製品情報
タイトル：ソーサリアン
ジャンル：アクションRPG
プレイ人数：1人
価格：500円（税込）
2021年配信予定

■製品紹介ページ
https://gmodecorp.com/gmodearchives/sorcerian/







『英雄伝説 創の軌跡』の各ルートをイメージしたオリジナルLINE着せかえが登場！

「リィン」「ロイド」「C」の各ルートをイメージしたオリジナル着せかえが登場。HOMEメニューや背景、パスワード入力画面を「創の軌跡」デザインに着せかえることができます。
※LINEアプリ⇒ウォレット⇒着せ替えショップで「ファルコム」を検索
■製品情報
商品名：『創の軌跡 -リィン-』『創の軌跡 -ロイド-』『創の軌跡 -C-』
価格：各370円
■ファルコムLINE着せかえ紹介ページ
https://www.falcom.co.jp/line-kisekae

リィン



ロイド



C



きせかえイメージ



《C》の正体丸わかり!? 素顔が満載の『創の軌跡』《C》の真実セット予約受付中！

謎に包まれた仮面の男《C》の正体に迫る、大胆不敵なオリジナルグッズセットが電撃屋"軌跡"メモリアルショップに登場！ダブルスエード仕様の高級感溢れるファブリックポスター、カットインイラストを用いたしかくい缶バッジ、仮面と素顔の2通りのSDキャラが楽しめるアクリルキーホルダー2種＆フルカラートートバッグと、合計5つの人気アイテムが押し込められた魅惑のセットです。

■製品情報
商品名：
『創の軌跡』《C》の真実セット
商品内容：
・Wスエードファブリックポスター
・しかくい缶バッジ
・アクリルキーホルダー（2種）
・フルカラープリントトートバッグ
販売価格：8,800円（税込）
■予約期間：
2021年3月7日（日）まで
■グッズ予約ページ
https://dengekiya.com/shop/g/g4570017180409/





©2021 Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.

※実際の商品ではキャラクターイラストの伏せた部分は見える状態となっています。

1月の新／衣装替えキャラクターをチェック！

2月の新規衣装替えキャラクターは？



晴着・エリィ

パールグレイのロングヘアーを三つ編みでひとつにまとめた姿が印象的なエリィの晴着姿。普段はストレートなだけに、髪型を変えただけでもグッとイメージが変わっている。藤色の袴もまた、色白なエリィによく似合っている。

THE LEGEND OF HEROES 暁の軌跡

アカツキノキセキ

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。
１月は新たに、エリィとアンゼリカの衣装替えが登場！

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/

公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

パーティー・アンゼリカ

「パーティー」とは言うものの、アンゼリカが纏うのはチャイナドレススタイル。東方由来の武術・泰斗流を修めているアンゼリカらしいチョイスとなっている。普段はパンツスタイルが多いため、貴重な脚線美を拝むことができるのがうれしい。



※画像は開発中のものです。　※上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

© Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.　© USERJOY JAPAN Co., Ltd. All Rights Reserved.　© USERJOY Technology Co., Ltd. All Rights Reserved.

『創の軌跡』の発売を記念して

『軌跡』シリーズの原点を振り返る！

英雄伝説 空の軌跡3 ～王都繚乱～

第1回



©MIYABI HASEGAWA , WADARCO

リベール王国を舞台とした『英雄伝説 空の軌跡』、クロスベル自治州を舞台とした『英雄伝説 零の軌跡』と『英雄伝説 碧の軌跡』。そして、エレボニア帝国を舞台とした『英雄伝説 閃の軌跡』。これまでゼムリア大国西部の各国を舞台として物語が紡がれてきた『軌跡』シリーズだが、最新作『英雄伝説 創の軌跡』は、これまでのシリーズに登場したキャラクターや世界観をより掘り下げていく作品ということで、シリーズの原点ともいえる第１作『英雄伝説 空の軌跡 FC』ノベライズを好評連載中！

製品情報

好評発売中

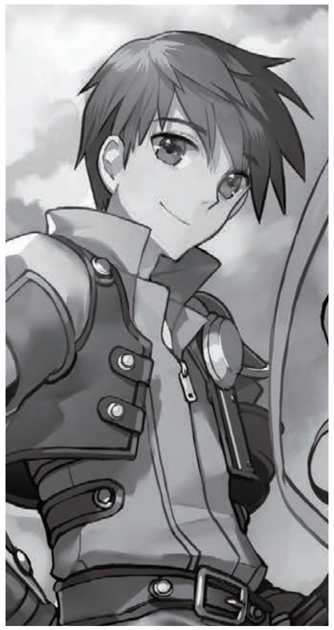
著　　　　:はせがわみやび
イラスト:ワダアルコ
定　　価:1,400円(税別)

あらすじ

準遊撃士の試験に合格し、義理の弟であるヨシュアとともに、憧れの遊撃士への道を踏み出したエステルだったが、父カシウスの行方知れずをきっかけに、王国を周る旅に出ることになる。故郷の街ロレントから始まった旅は、まずは商業都市ボースへ。ボースの空賊事件を解決したときに、父宛てに送られた謎の黒い導力器を手に入れる。さらに海港都市ルーアンでは、その導力器の大きな力の一端を垣間見ることとなった。

旅の過程で遊撃士として成長を続けるエステルだが、その一方で義理の弟ヨシュアが次第に気になる存在へと変わってゆく。揺れる心を抱えて、エステルは、父の行方と導力器の正体を探るべく、天才導力学者ラッセル博士を擁する工房都市ツァイスへと向かったが……。

Characters



ヨシュア・ブライト

５年前にエステルの父・カシウスに引き取られ、ブライト家へとやってきた16歳の少年。冷静沈着な性格で、暴走しがちなエステルを常に、一歩引いたところからサポートしている。時折、物憂げな表情を浮かべることもある。

エステル・ブライト

遊撃士を目指す16歳の少女。いつも明るく前向きで、周りにいる人たちの心を温かくしてくれる。故郷・ロレント市でのテストで準遊撃士となり、次に正遊撃士となるべく、リベール国内を徒歩で巡る旅を行っている。



黒い導力器の正体を調べたいのならば『工房都市』ツァイスに行け。

そう諭されたエステルとヨシュアは、王国最大の導力器生産地であるツァイス市を目指して、エア・レッテンの関所までやってきていた。

「うわ〜、壮観！」

関所の屋上から眺めた光景に、エステルは思わず声をあげてしまう。

目の前いっぱいに広がるのは流れ落ちる水のカーテン——大瀑布だ。

大きな音を立てて高い崖の上から奈落の底へ。飛沫（しぶき）がエステルたちの立っている屋上のほうにまで飛んでくる。冷たくて、気持ちいい！

水の流れを遡れば両側に石組みの壁が見えている。川ではなくて、人工の水路だ。壁と壁の間を流れていた水が、崖まで導かれて一気に目の前で落ちている。

「たしか《ローツェ水道》っていう名前だったかな？　中世に造られた水道橋だね」

エステルの傍らに立っているヨシュアが教えてくれる。いつもよりも少し声を大きくしていた。耳をつく滝の音のせいで会話をしていると自然とそうなってしまう。

「水道橋……中世っていうことは《導力器（オーブメント）》が発明される前ってことよね？」

導力器が発明されたのが七耀暦一一五〇年——今から五十年ほど前になる。中世時代はそれよりさらに昔だ。

「あの水路で、ヴァレリア湖から直接水を運んでいるんですよ」

そう教えてくれたのは、エステルたちをここまで見送りに来てくれたクローゼだった。

「それって、導力器も無い時代に、遠いヴァレリア湖からあそこまで水を流すための路（みち）を造ったってこと？　うーん、よくできたわよね」

エステルの口からは感嘆のため息が零れてしまう。

「それで、あっちが……」

滝から目を離し東のほうの山脈へと視線を振った。関所の建物はそちらで山に接していて、黒々と開いた洞窟の入口へと繋がっていた。

「あれが——《カルデア隧道》？」

「はい。山の向こうにあるツァイス市まで通じている地下道です」

「じゃあ、ここでお別れね……」

エステルの呟きにクローゼが頷いた。

せっかく友達になれたのにと思うと、エステルは名残り惜しかった。

「あの、エステルさんたちは、ヴァレリア湖を周るように王国を一周するんですよね？」

「そうだけど……？」

「では、ひょっとしたら王都で、またお会いできるかもしれません」

「え、そうなの!?　クローゼも王都に？」

クローゼが首を縦に振る。

「私、女王生誕祭の頃には王都に戻るつもりなんです。親戚の集まりのようなものに出席しなくてはならないので……」
「女王生誕祭というと一ヶ月くらい先だね。たしかに、その頃には僕たちも王都に辿りついているかもしれない」
　ヨシュアが言った。
「あ、じゃあさ！　親戚の用事が終わったら、王都の遊撃士協会に連絡してよ。そうすれば会えると思うから」
「はい、必ず連絡しますね」
　少し寂しくて落ち込んでいた気持ちが浮上してくる。未来の楽しみが一つ増えた。
「本当にありがとうございました。おふたりがしてくださったこと、私、絶対に忘れませんから……」
「や、やだな～。水くさいってば～」
「僕たちも君には色々と世話になったしね。おあいこってことにしようよ」
　クローゼがふるふると首を振った。
「あの時……市長と対決した時……私は偉そうなことを言いました。『あなたは立場に囚われている』『自分の身が可愛いだけ』って。でも、それは私も同じだったんです」
「えっ……？」
「私の場合は自分の立場から逃げようとばかりしていたんですけど。それって、立場に囚われているのと同じですよね。孤児院にしても学園にしても、どこか逃げ場にしていたんです。でも、そんな私にエステルさんたちは教えてくれました。立場に囚われず、どんな時でも前向きに進んでいく決意を。大切なものを守る強さを……」
　顔を上げたクローゼは晴れやかな笑みを浮かべていた。
「ありがとう。おかげで私も少しだけ勇気が出せそうです」
「よ、よく判んないけど……。でも、役に立てたんだったら、あたしとしても嬉しいかな」
　エステルはクローゼをぎゅっと抱きしめる。
「きゃっ……」
「えへへ。元気でね、クローゼ。今度は王都で会いましょ！」
「ピュイピュイ」
　クローゼの友人であるシロハヤブサのジークも、別れを惜しむかのように空の上で鳴いていた。
　隼に向かってエステルは手を振る。
「ジークも、またね！」
「ピューイ！」
「じゃあ、そろそろ行くとしようか」
「ん……そうね」
　再会を誓ってエステルはヨシュアとともにカルデア隧道へと入っていった。

†　†　†

エステルとヨシュアを見送るクローゼの背中に声が掛けられる。

「――殿下」

声の主はクローゼを『殿下』と呼び、振り返った彼女は、その言葉を当然のように受けとめる。

クローゼの元へ、凛々しい面立ちの女性が歩いてくる。彼女が着ているのはリベール王国の王室親衛隊の制服だった。

「ユリアさん。あなたが来てくださったんですか。ありがとうございます」

王室親衛隊の制服を着た女性――ユリア・シュヴァルツはクローゼの労いの言葉に恭しく頭を下げる。ジークが空から降りてきてユリアの肩へと留まった。

「殿下、街道の外れに《アルセイユ》を停めています。報告の方はそちらで……」

「はい。学園生活も、しばらくお休みですね。王都に戻る前に先生たちに挨拶しなくては……」

級友たちに会えなくなることが、孤児院の子どもたちに会えなくなることが、クローゼには少しだけ寂しい。

でも――決めたのだ。自分の立場から、もう逃げないと。

（エステルさん、ヨシュアさん。おふたりに負けないよう。精一杯、頑張ります）

遊撃士の二人が消えた洞窟を見つめながら心のなかで呟いた。

3章　導力停止現象

第十四幕　黒い導力器の調査

エステルとヨシュアは薄暗い地下の道を進んでゆく。
長い長い地下道だ。ごつごつした岩肌を所々にある導力照明が照らしている。
それでも暗闇のすべてを掃いきれるものではなく、そこここに闇がわだかまって残っていた。視界はわるく、道も凹凸があって歩きにくい。
「あっと」
躓きそうになったエステルを、とっさにヨシュアが腕をつかんで支えてくれた。
「大丈夫かいエステル。慣れない道だからね。手をつないでおく?」
「え⁉」
言われた言葉に一瞬だけエステルの心臓が跳ねた。
（て、手をつなぐって……ヨシュアと⁉）
「どうする?」
「い、いいわよそんなの!」
思わずうろたえてしまった。身体を屈め、覗き込むようにしてエステルの表情を見つめてくるヨシュアが、はあ、とため息をついてから顔をあげた。
「また……妙なことを考えてるんじゃないよね?」
「みょうな、ことって?」
「クローゼにわるい、とかさ。あのさ、エステル、もしかして気づいていなかったとか言わないよね?」
「へ……?　気づいてないって、何が?」
「だから、学園祭のお芝居の最後の場面。クローゼとのあれ」
（あれって……あ、あの、キスシー……）
「はあ……。あれはフリだったよ、フリ。うまく角度をずらして、見せかけただけなんだけど。台本の注釈のところにも、ちゃんと書いてあっただろう?」
真っ暗なのが幸いだった。エステルは自分の頬が熱くなっているのが判ってしまう。
「そ、そうだったの⁉」
「やっぱり気にしていたんだ?」
「ち、違うわよ!　ええと、ほら、……そう、もしも魔獣が出てきたときに素早く動けなかったら困るじゃない⁉」
「……それもそうだね」
つかんでいた腕を離し、身体も離してあっさりと引き下がったヨシュアに、エステルは自分でもよく判らない安堵の息をついてしまった。
（って、なんであたし、ほっとしてるんだろ）
心のなかが、ちょっともやもやする。
首を振ってから辺りを見回して気づいた。
「――あれ?　あそこの照明、おかしくない?」

壁に掛かった照明が一つ。点いたり消えたりを繰り返している。
近寄って観察してみた。素人目には、外見に異常は見当たらないけれど……。
「うーん。びみょーに調子がわるいみたい。燃料切れかしら。大丈夫かな？」
「導力器（オーブメント）を動かす導力は自動的に蓄えられるはずだから心配はないと思うけど……それに……」
「勝手にいじって壊しちゃっても大変だし。ツァイスに着いたときに報告すればいいかな？」
ヨシュアも頷きを返してきたので、歩みを再開することになった。
道なりに進んでいると、軽やかな足音が聞こえ、洞窟の先——ツァイス市側からやってくる小さな子どもの姿をエステルの目が捉えた。
明かりの下を過ぎるたびに姿がちょっとずつ見えてくる。
金色の髪と、顎の下の帽子の締め帯を左右に振り乱しながら走っている。長い髪のおかげで辛うじて少女だと見当がついたけれど、思わず二度見するくらい性別の判らない格好をしていた。少し大きめの長靴（ブーツ）と手袋をしていて、革帯（ベルト）のいっぱい付いた、だぼっとした服を着ていたのだ。暗くて判りにくいが服はたぶんピンク色だ。そこだけは女の子っぽい。けれど、どう見ても工場（こうば）の作業員のような服だった。
さらに近づいてくる。丸い帽子に被せるようにして大きな硝子眼鏡（ゴーグル）を頭に乗せていた。眼鏡の硝子が導力器の明かりを反射している。もう数歩先まで来ている。けれどもエステルたちには気づいていないようだ。
（あんなに走っちゃ……危ない！）

少女がよろけたのを見て、エステルはとっさに前に出る。
受け止めきれなかった。
胸に衝撃を受けて、たたらを踏んでしまう。エステルにぶつかった少女は跳ね返って反対側に尻もちをついた。
「きゃ！」
「はう〜っ？」
「あっちゃ〜。ご、ごめんね。だ、だいじょうぶ？」
「やれやれ。エステルももっと注意しないと……。君、ケガはない？」
ヨシュアが尻もちをついている少女に声をかけた。
「だ、大丈夫です〜」
起き上がった少女がぺこりと頭を下げてくる。
「ご、ごめんなさい。ちょっと急いでたから……」
「ううん。気にしないで。ケガがなくてよかった！　こんな暗いところで、あんなに走っちゃ危ないってば」
「それはその。あ、そうだ……あの、お姉さんたち、この道を通ってきたんですよね？」
「そうだけど？」
「あのあの、だったら途中に消えた照明を見ませんでした？」
「川を二つ越えたところにあったやつかな。今にも消えそうで点いたり消えたりしてたけど」

ヨシュアの言葉に、ぱっと少女が顔を明るくした。
「や、やっぱり、思ったとおりだよ〜っ！　すみませんっ。わたし急がなくっちゃ！」
少女はエステルたちの脇を抜けて、止める間もなくトンネルの奥へ駆け出していった。
「ツァイス市の子かな。変わった格好をしてたね」
「ずいぶん慌てていたけど……ね、ヨシュア。ちょっと追いかけてみない？」
エステルがつい心配してしまうくらい、その女の子からは絶対にまた転びそうな気配がしていたのだ。
「そう言うと思ったよ」
ヨシュアが肩を竦めながら言った。

† † †

「もう、こんなに集まって来ちゃったよ〜！」
トンネルを引き返した先でエステルが耳にしたのは、先ほどの少女の悲鳴だった。
（あ、まっくらになってる）
点滅していたはずの照明はいまや完全に機能を停止していて、そのあたり一帯が周りよりもさらに暗くなっていた。
薄暗がりのなか、すでに魔獣が集まってきているのが判る。

巨大な芋虫の姿が見えていた。もぞもぞとした動きの、丸くて細長い巨大な虫たち。
《ダンプクロウラー》だ！
一匹一匹が悲鳴をあげた少女の身体よりも大きかった。節を伸び縮みさせる、うぞうぞとした気持ちのわるい動きで消えた照明の下へと集まりつつあった。
少女が、背負っていた袋から何か大きな筒のようなものを取り出した。
「ヨシュア。あれって……」
「導力砲——かな。ちょっとまずいかも」
小さな大砲のような武器である導力砲は、小さな女の子がもつには違和感があったが、こんなトンネルの奥深くまでやってくるくらいだから、普通の女の子ではないのかもしれない。
少女の呟きが聞こえてくる。
「仰角二十度……導力充填率三十％……いっけええっ！」
弾が発射された。反動でよろめいて少女が尻もちをつく。
轟音と共に放たれた弾は、ダンプクロウラーたちの近くへと落ちて、まばゆい光を辺りに撒き散らした——光弾だ！　闇が束の間だけ掃われて、取り巻いている大芋虫たちの姿が露わになった。
光を浴びた魔獣の群れは、焦ったようにぱっと一斉に散ったあと、光弾を発射した少女のほうへと同時に頭を振り向けた。
ビクッと彼女の肩が跳ねる。
「あぅ……そ、それ以上近づいたら今度はホントに当てちゃうんだから！　ほ、本当に、本気なん

だからっ！」
女の子の言葉を無視し、ダンプクロウラーたちは前進を再開した！
「や、やばいんじゃない、あれ」
「行こう！」
ダンプクロウラーたちが少女へと迫る。
群れの中から二匹の芋虫が彼女に飛びかかった。
「きゃあっ！」
間一髪で彼女の前にエステルは飛び込んだ。
「とりゃあああっ！」
気合いの声とともに、少女に襲いかかっていた魔獣へと蹴りを入れて遠ざける。ほぼ同時にヨシュアが短剣でもう一匹を斬りつけて倒していた。
エステルは背負っていた両手持ちの棍を構えるとダンプクロウラーたちを睨みつけた。
「え……おねえさん……？　あ、さっきの！」
「話はあとあと！　いいから下がってて！」
「とりあえず、こいつらを僕たちが追っ払うからね！」
少女を背後にかばい、エステルたちは魔獣の群れと向き合った。
ダンプクロウラーたちの口が閉じたり開いたりしている。ガチガチと、口のなかに生えた歯を噛み合わせて鳴らしていた。あの鋭い歯は洞窟の硬い岩壁さえ削り取ることができるという。もちろん噛みつかれたら手足など簡単に千切られてしまう。甘く見ることはできなかった。
また一匹が飛びかかってきた！
エステルの棍が風車のように回る。低く鈍い音が何度も響くと、襲い掛かってきたダンプクロウラーはたまりかねたように身体を反転させて暗闇のなかへと戻った。
ヨシュアが両手にもった短剣で二体のクロウラーを同時に相手していた。踊るような動きで岩さえ砕く芋虫の噛みつき攻撃を避けながら斬りつけている。
「す、すごい……！」

†　†　†

「あのあの……ありがとうございますっ。おかげで助かりました」
少女がお礼を言ってきた。改めて見ると、エステルよりも二つか三つは幼い。まだ子どもと言っていい年頃の女の子だ。
「あはは。無事で何よりだったわね。でもちょっと感心しないわよ？　いくら武器を持っているからって、魔獣を挑発するなんて危ないことしちゃダメじゃない」
「あぅ……ごめんなさい。でもでも、放っておいたら照明が壊されちゃうと思って……」
「だからって無茶するにも程があるって。あたしたちが来なかったら大ケガするところだったわよ？」

「あぅ……」
「まあまあ、そのくらいで。第一、無茶するなとか、君が言っても説得力ないしね」
「ヨシュアってば、水を差さないのっ。えーと、ごほん！」
　軽く咳払いして少女に向き直る。ともかく、何事もなくて幸いだ。
「あたし、エステルっていうの」
「僕はヨシュア。ふたりとも、遊撃士協会の見習い遊撃士なんだ」
「わあ、それであんなに強かったんだ！　わたし、ティータっていいます。ツァイスの《中央工房》で見習いをさせてもらってます」
「へぇ、工房で働いてるんだ」
　ということはティータの奇妙な格好は工房の作業服なのだろう。なるほど、なんとなく工場（こうば）の作業員のようだと思ったエステルの印象は正しかったわけだ。
「ティータちゃん。ツァイスに戻るんだったら、あたしたちと一緒に行かない？」
「そうだね。また魔獣が出たら大変だし」
「ほ、ほんとですか？　ありがとーございますっ」
　ティータはエステルたちの申し出に顔を輝かせた。やはり多少は不安だったのだろう。
「あ、ちょっと待っててください。この照明を修理しちゃいますから」
　腰につけていた簡易の導力灯を点して明かりを確保すると、ティータは導力砲を入れていた背負い袋から工具を取り出し始める。エステルたちはティータが導力器の修理を終えるまで見守ることになった。

　ティータは替えの部品らしきものを驚くほどの手際の良さで取り換えていく。
「んしょっと。はい、これでいーです。お待たせしちゃいました」
　振り返ったティータの後ろでは、照明が正常な明るさを取り戻していた。
「すごい！　手際いい！」
「さすが、噂の中央工房で見習いをしてるだけあるね」
「えへへ。大したことはしてないです。クオーツの接続不良を直して導力圧を調整しただけですから」
　さらりと難しい単語を並べられてしまった。
「えー、えーと？　なんか充分、大したことのように聞こえちゃうんですけど……」
「そんなことないですよー。えとですね。わかりやすく説明すると――」
　そこからのティータは早口だった。
「導力器の内部にはクオーツっていう結晶回路がはまっているんですけど、それがきちんとユニット部に接続されていないと生成された導力が行き場を失ってしまって、結果的に想定された当初の機能が発揮できなくなってしまうんです。つまり街道灯の場合は光と魔獣除けに調整されている機能が――」
「ス、ストップ！」
　エステルは慌てて止めた。
　ちんぷんかんぷんで、まったく頭に入ってこない。

「せ、説明はまたにして、そろそろ出発したいかな～。こんな所で立ち話もなんだし」
「あ、それもそーですね。ちょっと残念ですけど……」
　そう言って、本当に惜しいなという顔をするのだ。止めなかったら、この洞窟のなかで延々と導力器の講義を受けることになったに違いない。エステルはほっと息をついた。これ以上の難しい説明を聞き続けたら、目が回ってしまう。
「はは、それじゃあ改めてツァイスに向かうとしようか」
　ヨシュアが促してくれた。
　歩みを再開する。半刻ほど経ったところで地下道の先に出口が見えた。
「トンネルの終点──みたいね。ってことは、あそこがツァイス市の入口なの？」
「はい、そーです。正確には、中央工房の地下区画に出るんですけど」
「中央工房……ティータが見習いをしてるっていう？」
「『工房都市』であるツァイスが誇る導力器技術の殿堂だね。ずいぶん大きな建物だって聞いたことがあるけど」
　エステルの言葉を引き取ってヨシュアが言った。
「それはもー。とにかくおっきいです」
　こーんなに、とティータが両腕を左右に広げた。小さな身体で精いっぱい大きさを表現する。エステルは心のなかで可愛い子だなー、と思ってしまった。先ほども導力について語ったときには目がキラキラしていた。

「初めて来るお客さんなんか、工房のなかで迷子になっちゃうくらいです」
「ひええ……そりゃまた大したもんね。ちゃんと協会まで行けるか心配になってきたわ」
「とりあえず一階に上がればダイジョーブですよ。街の方に出る玄関があるんです」
「ん、わかった。あ、でもさ。このトンネルがそのまま工房の建物の地下に繋がってるってことでいいの？」
「そーですよ。ヘンですか？」
　地下トンネルの出口がそのまま街の建物の地下へと繋がっているというのは充分にヘンだと思うのだけれど、真顔で問われるとエステルは自分のほうがおかしいのかなと不安になってしまう。思わず傍らのヨシュアの顔を見てしまった。
「彼女にとっては生まれたときからこうなっているんだろうからね。不思議に思わないのも無理はないさ」
「そういうもん？」
「そういうもんだよ」
　エステルの口調を真似してヨシュアが答えた。それを見ていてティータが口を開く。
「おふたりは仲が良いんですね」
「えっ」
　不意打ちのティータの言葉に、エステルはどきりとしてしまった。
「まあ、幼馴染だからね。思うに、この地下道は昔は坑道だったんじゃないかな。出口側に工場を

作ったのが始まりで……発達して、街の中心的な建物になったんだと思うよ」
　心臓の高鳴りを意識しつつも、目の前の話に集中する。
「……なるほど。建物の中にトンネルを作ったんじゃなくて、トンネルがあったから、そこに建物を造ったってわけね！」
「そういうこと」
　ヨシュアの言葉にエステルは納得した。
　エステルたちはトンネルを抜けて、中央工房の地下だという通路へと出た。
　すべすべした磨かれた石の床だ。四方も傷一つない壁に替わっている。Ｔの字の形になっている通路の突きあたりまで歩くと、左を指さしてティータが言う。
「一階へ行くには昇降機（エレベータ）を使うんです。こっちですよ」
　案内された先は、大人が十人ほど入れそうな小さな部屋だった。扉を開けて入って、エステルはキョロキョロしてしまう。
「んー？　昇降機って鉱山にもあった昇降装置よね。どこにも見当たらないけど……」
「違うよエステル。たぶん、この部屋そのものが上下する造りになってるんだ」
「この部屋そのものがって……ええ!?」
　小さく思えたけれど、この部屋ぜんぶが昇降装置だというなら話は別だ。こんなに大きな部屋が上下するっていうわけ？

「えへへ、最新式なんですよー。最大積載量、５０トリム！　大型機材の搬入なんかもラクラクこなしちゃうんですっ」
「よ、よく判らないけど、なんか凄そうなカンジかも。それで、どうやったら動くの？」
「ここの操作盤（パネル）で行きたい階を選べばＯＫです」
　ティータが操作盤についた釦（ボタン）を押し込むと、部屋全体がガクンと揺れる。
　身体をぎゅっと上から押さえつけられるような不思議な感じがした。足下がなんだか落ち着かない。
「わわ……」
「大丈夫？」
「う、うん」
　閉じた扉が次に開くと、入ったときとは別の光景が外に広がっていた。
「へ～。なんか広いトコに出たわね」
　扉が開くと目の前が大きな部屋になっていたのだ。
　左手には受付らしき机と案内嬢がいる。右手の向こうに見える大扉は開いていて、外の青い空が見えている。部屋のなかには作業着らしき服を着こんだ人たちや、白衣を着た人たちが行き来していた。
「ここが中央工房の一階です。受付のカウンターと一般のお客さん向けのメンテナンス窓口があります」

「あっ、ティータちゃん」
　受付に座っていた女性がティータを見つけて声をかけてきた。
「ヘイゼルさん、なんですか？」
「ちょうどよかったわ。トランス主任があなたのことを捜していたの。演算室に来て欲しいんですって」
「あ……はい、わかりましたっ」
　振り向いたティータは申し訳なさそうに眉を下げていた。どうやらこの先の、街のほうも案内してくれようとしていたらしい。
　エステルはあっけらかんと笑ってみせる。そこまで世話になるつもりは元々なかった。
「急用が入っちゃったみたいね」
「ありがとう。ここまで案内してくれて」
　ヨシュアも微笑んだ。
「と、とんでもないですよー。わたしの方こそお世話になっちゃって……」
「あたしたち、しばらくツァイスに滞在するからさ。よかったらまた会いましょ？」
　エステルの提案に、ティータの顔がぱぁっと綻んだ。
「はい、よろこんでっ！」
　別れの挨拶を交わすと、ティータはふたたび昇降機の扉を開けて中へと入っていった。演算室とか言っていた部屋のある別の階へ行くのだろう。手を振るティータの前で扉が閉まった。

「はは、可愛い子だったね。一生懸命な感じがして」
「うんうん、同感！　あ〜あ、あたしも、ああいう健気で可愛い妹が欲しかったなぁ。誰かさんみたいな可愛くない弟じゃなくてさ〜」
「何度も言うようだけど、いつもフォローしてるのは僕。お姉さんぶりたいんだったら、もっとしっかりしてくれないとね」
「ふんだ、よけーなお世話。それはともかく……さっそく街の方に行ってみる？」
「そうだね、支部で到着の挨拶をしておこうか。それと……父さんのことも相談してみよう」
「ん……オッケー」
　エステルは気を引き締めた。
　行方不明の父について、何か新しい情報が入っているかもしれない。
(だいじょうぶ。ぜったい、お父さんはだいじょうぶ)
　そう信じようとするのだけれど、考えるたびに不安の種は芽を出して根を伸ばし、心のなかで恐れとなって育っていこうとする。恐ろしい予感がエステルの身体を縛りつけようとする。
　ぽん、と背中を叩かれた。
　その瞬間に、すっとエステルの胸が軽くなる。
　背中を叩いたのはヨシュアだった。
「さあ、行こう」
「うん！」

（だいじょうぶ！　あたしはまだ元気！）
受付で地図を手に入れ、中央玄関からエステルたちは街へと出た。

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



1名様

『イースIX -Monstrum NOX-』タペストリー

白猫をモチーフにした超貴重な『イースIX -Monstrum NOX-』の店頭用タペストリーを1名にプレゼント！

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.120プレゼント係
1：お名前（ペンネーム可）
2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→（記事一覧から１つずつ）
3：アンケート① ファルコムマガジンで印象に残っている記事・企画は？
　アンケート② ファルコムマガジンで印象に残っている漫画・小説は？
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

記事一覧

1：創の軌跡 THE MISERABLE SINNERS
2：も～っと集まれ！ファルコム学園
3：英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～
4：ファルコムニュース
5：暁の軌跡最新情報
6：英雄伝説 空の軌跡

応募締め切り　2月24日（水）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.120

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/

Copyright
©Nihon Falcom Corporation.All rights reserved.
©2021 FIELD-Y
©DAISUKE ARAKUBO 2021
©SHINKI KITSUTSUKI 2021

日本ファルコム(株)のライセンス許諾商品です。